

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 30 日現在

機関番号：34527

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26370938

研究課題名(和文) ライフヒストリーとジェンダーからみた日英の庭園の思想と実践に関する地理学的研究

研究課題名(英文) Cultural geography of gardening in Japan and Britain, c.1800-2010: life history, gender and transculturation

研究代表者

橘 セツ (Tachibana, Setsu)

神戸山手大学・現代社会学部・教授

研究者番号：70441409

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、ライフヒストリーとジェンダーから近現代の日本と英国の庭園をめぐる思想と実践に地理学的にアプローチした。本研究では、日英の文化を越える庭園にも着目した。近現代は日英ともに女性の教育、女性の家庭での役割、女性の社会進出など共通した方向の変化が捉えられる。本研究ではライフヒストリーで語られる旅行・学校・家庭における庭園の実践のプロセスがジェンダー化することを批判的に明らかにした。さらに庭園の実践の中に現れる社会性・生産性・精神性の価値基準のスケールを組み合わせ考察することで、近現代の各々の世代による庭園の実践に女性と家庭や社会との多様化・複雑化する関係の諸相を具体的に解明した。

研究成果の概要(英文)：This project is concerned with the geography of the cross-cultural gardening and horticulture in modern age both Japan and Britain with particular reference to the narrative of life history and gender. This research has been focused on three different life stages such as school, travel, and home, and looking at how cross-cultural gardening ideas and knowledge derived from them. Gardening education took several forms, such as personal travel, length periods of stay and study, deep reading and immersion in relevant texts, and practical engagement and enthusiasm with horticulture in the domestic sphere. This research examined gardening work of several key figures as well as ordinary people's everyday life gardening.

研究分野：人文地理学

キーワード：文化地理学 庭園(ガーデン、ガーデニング、園芸) イギリス(英国) ライフヒストリー ジェンダー

1. 研究開始当初の背景

庭園は、多様な思想が言説や表象として表現される媒体であると同時に人間が植物を栽培しデザインし管理することを通じて自然へ働きかけた実践による帰結として物質性を伴った場所である。庭園のデザインは、その時代と社会思想の物質性をもった表現であり、地所は庭園の創造と破壊と再創造の連鎖を伴って幾重にも重ね書き palimpsest される(Crang, 1998; ストロング, 2003)。時代によって庭園は、宗教的な庭園、王権の強大な力を表現する権威主義的な庭園、市民社会への開かれた庭園、世界中から植物を収集した科学的な実験庭園、やがて大衆化され家庭的な楽しみのための庭園へとせめぎ合いつつ変貌をとげてきた。

18世紀に、英国の貴族や富裕な地主のあいだで、丘や谷のある緩やかな起伏のある地形を生かして地所全体を自然の風景のようにデザインする風景式庭園が考案され流行した。日本でも伝統的に山水と呼ばれる庭園は山に水の流れがあるような自然の風景を志向する庭園を独自に発展させてきた。やがて東西の2国の自然志向の庭園は1860年以降、文化を越えて出会い交流する。

本研究では、日本と英国の間の旅行・植物・庭園をめぐるトランスカルチュレーションとそれにかかわった人間のライフヒストリーと個人としての生き方から日本と英国の異文化間の出会いにともなう環境観のダイナミズムにアプローチする。ジャポニズムの潮流を伴い英国で日本原産植物と日本庭園が流行したのは、1860年から1930年代である。当時、英国と日本は帝国主義国家を形成していた。この東西2国の帝国主義の異文化の出会いが、英国における日本庭園の造園の契機となったが、英国の日本庭園を創出した異文化間の接触には、帝国主義の出会いという負の側面とは別な人間同士の出会いのドラマがみられた。これまでの研究で扱ったのは、英国における日本の風景の表象について、異文化交流のドラマを構成した植物、博物学、プラント・コレクター、博覧会、日本旅行者、庭園デザイナー、地所に日本庭園を造った富裕な英国人たちなどであった。

2. 研究の目的

近現代は日英ともに女性の教育、女性の家庭での役割、女性の社会進出などに共通した方向性を持った変化が捉えられる。庭園をめぐるジェンダーのプロセスが前景化する旅行・学校・家庭のライフヒストリーにおいて、本研究では、より普遍的な庭園の社会性・生産性・精神性の3つの価値基準を組み合わせ、近現代の日英の庭園における思想と実践の展開について研究する。庭園の社会性とは、庭園が個人の地所にある私的な空間であろうとも、労働の場所として、接客空間として、またオープンガーデンなどで公開される機会を通じて社会性を持つことを指す。庭園の

生産性とは、キッチンガーデン(家庭菜園)のように野菜や果物などの食料を生産する庭園の側面を指す。庭園の精神性とは、ガーデニングの実践によって人間のモラルや精神的な価値が高められるような体験全般を示唆する。これらの作業を通じて近現代の各々の世代による庭園の実践に女性と家庭や社会との多様化・複雑化する関係の諸相がどのように現れるか解明するのが本研究の目的である。

3. 研究の方法

庭園は人文科学の総合芸術であり学際的な研究分野でもある。庭園を研究対象とする他の学術分野の研究動向の成果を踏まえて、地理学の学問的特徴を生かし、ジェンダーの視点を導入して捉え直す。文化地理学的な分析概念として、風景、場所や空間、心象地理、コンタクト・ゾーン、ハイブリッドなどをジェンダーの視点と組み合わせることで精緻化する。

19世紀から21世紀に初期にわたる200年あまりの間に、日本と英国の庭園の言語記述と図像による表象と言説に現れる女性の変化の諸相を解読する資料を収集し、表象・言説の分析を行う。庭園をめぐるこれらの表象・言説のなかに旅行・学校・家庭と女性の関係がどのように現れるのかに注目して分析した。

ライフヒストリー収集は、研究対象とする時代が19世紀から21世紀初期と幅広いため、時代に応じて自伝や伝記、旅行記などの文献資料調査とインタビューを平行して行う。

本研究で、扱った資料は、同時代の雑誌(とくに園芸雑誌)、ガーデニング・マニュアル、ポスターなどに描かれる図像や文字資料、庭園訪問、インタビューなどである。

4. 研究成果

本研究で、得られた主な知見は次のようにまとめられる。

(1) 20世紀初期の英国では日本庭園が流行した。当時は、英国人ならば女性が、ガーデンデザイナーとして地主に雇われることは、ほとんどなかった。しかし、本研究では、ガーデンデザイナーが外国人女性であるという事実が、ジェンダーよりも強く作用したケースを確認することができた。

(2) 近代の家庭(ホーム)のなかで主婦が関わるガーデニングは、しばしば幸福の象徴として美的に、同時にジェンダー化され、政治的に描かれた。

(3) 20世紀の二つの世界大戦を契機に、女性がそれまでは男性の領域とされたガーデニングを含む農作業を行うことが社会的に認められた。特に英国の戦時中は、階級を超えて、さらに女性や子どもを含む国民を皆アマチュア・ガーデナーとして食料生産にあたることを国策としてすすめるDig for Victoryキャンペーンが行われ、それ以降、女性とガーデニングの関係性が刷新された。

(4) 庭園の視覚化イメージが発動する美、健康、幸福、家庭、モラル、エコロジ的な意味や価値観は、階層化され、ジェンダー化されながら、社会、自然、身体について再帰的な関係にあった。

(5) 21世紀初期の日本のイングリッシュガーデンブームを牽引する多くの女性は、日本人の自然観と親和しながら、オープンガーデンなどの機会を通じて、階層化しながら新たなライフスタイルを創造し、定着させつつある。

(6) 高齢化社会の中でガーデニングについての語りはセカンドライフの充実を語ることに重なることが明らかとなった。この側面は、本研究では、十分焦点をあてて論じることができなかったため、次の課題としたい。

本研究の学術的特色と独創性の一つは、日英の文化を越えて造園される庭園のジェンダーとトランスカルチュレーションの考察を交差させたライフヒストリーの分析を行ったことにある。本研究の成果として、国際学会発表、英国の研究者との共同講演、英文論文を通じてクロス・カルチュラルな視点からジェンダーと庭園をめぐる地理学の研究として国際発信を行った。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 4 件)

TACHIBANA Setsu, 'The "Capture" of Exotic Natures: Cross-cultural Knowledge and Japanese Gardening in Early 20th Century Britain' 『人文地理』 査読有 66-6, p4-18, 2014

橘セツ 「スコットランド西部アイオナ島の歴史と巡礼ツーリズムの素描」『神戸山手大学紀要』 査読無 16,p.1-18, 2014

橘セツ 「1950年代に活躍した英国人著述家マージェリー・フィッシュによる庭園の語りから試みるホームとジェンダーをめぐる庭園の文化地理学」『神戸山手大学紀要』 査読無 18,p.43-57, 2016

橘セツ 「英国人女性画家エブリン・ダンバーの描いた戦時のガーデニングとジェンダー」『神戸山手大学紀要』 査読無 19, 2017(掲載予定)

〔学会発表〕(計 5 件)

TACHIBANA Setsu, 'Making English Gardens in Japan 1860-2010: ideas, practices and modernity' The 16th International Conference of Historical Geographers, 2015.7.9.ロンドン(英国)

橘セツ, 「ニューステッド・アビーの庭園にみる思想と実践——パイロン家、ワイルドマン家、ウェブ家へと変遷する庭園管理を通して——」日本パイロン協会談話会 2015年7月18日ホテルオークラ

新潟

橘セツ, 「20世紀戦時下におけるガーデニングとジェンダーの文化地理学——英国の'Dig for Victory'キャンペーンをめぐる——」人文地理学会大会 2015年11月15日大阪大学文学部

橘セツ, 「キッチン・ガーデンの審美学——18世紀後半から20世紀の英国の事例を中心に——」日本地理学会春季学術大会 2016年3月22日早稲田大学

TACHIBANA Setsu, and WATKINS, Charles, Cross-cultural Gardening at Newstead Abbey, Newstead Abbey Partnership Lectures (招待講演)2016.12.4. Newstead Abbey, Nottinghamshire (英国)

〔図書〕(計 1 件)

大橋昭一他編、橘セツ他、『観光学ガイドブック』、ナカニシヤ出版、p.303, 2014

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

取得状況(計 0 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年月日:

国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

橘 セツ (TACHIBANA Setsu)

神戸山手大学・現代社会学部・教授

研究者番号: 70441409

(2) 研究分担者

()

研究者番号:

(3) 連携研究者

()

研究者番号：

(4)研究協力者 ()